

1977年12月3日 第三種郵便物認可(毎月18回1・2・3・5・6・7の日発行)
2024年10月21日発行 通巻8530号 SSKP たこの木通信 444号

SSKP

たこの木通信

444号

(2024/10)



電話：042-389-1378

E-MAIL：takonoki@dream.jp

ホームページ：<https://takonoki.net/>

郵便振替：00100-2-24685

#手書きが最強 その② #たこの木連講座 12月8日 予定
#かわりの社会学 #三井さよ また会場場所 未定

もんだい インスタ映え の 対義語を 次の3つの中から
正解を○で囲め。

- ① インスタ萎え
- ② 手書き映え
- ③ 横浜銀虫

手紙のようで手紙でなーい、バンバン 葉書のように葉書でなーいバンバン
ヨーヨー それはなにかとたずねたら 手書き、手書き、てくわき。
こんなサイズな ラップフレーズが 2週間くらい前に 自然に 心の中から
あきあがってきたので、10月のたこの木通信も、映え萌え いこてエ ヨーヨー
と思っていたけど しめじり間近に 手書き萎えだということに気付く
小さく書くことにより、ごまかしている。手書きだとミミズがミミズで
大ききも型も調整するのですか最強!

#ヒープロフォースト全国大会 in 奈良
(10月12~13日) に行ってきました。

分科会には 生活とおかねの分科会 に参加しました。

担当はヒープロフォースト東久留米代表の

#小田島さん へ 閲覧数爆上がり

👁️ 手書き映え閲覧数 12936人
Q 検索数 集計中

②

ところが小田島さん、奈良に行く直前で体調をくずしたらしく
奈良にはこられなかったけどなんとZOOMで登場!!
「来年会おう!」と元気に言っていました。

たこの木連続講座「かかわりの社会学」

は12月8日 予定ですがまだ会場場所
が~~決ま~~決まっています。もうすぐ決まる予定です。

テーマとしては「就学運動が描いた種と
したいと思います。就学運動は学校側の話でもなければ
障害側の話でもなし。そこで語られていることは社会の
あちこちでも言えること。それぞれの立場がそれとして受け止めて
こられたものがあると思うのでその話を伺えれば
と思っています。三井さんのメールより

12月8日の講座が終われば次はたこの木忘年会の
季節だね。また 岩本さんと立野さん企画 幹事よろしく!!

~~井~~井かかわりの社会学講座でいろいろこれまでのこと
を整理しようと思っていただけですます混沌と
してました。関西人は混沌、かきまぜることを
好むらしい。奈良でみんなでおこのみ焼き
を食べながら、そんな事を考えてた。BY 横田

【重度訪問介護対象拡大から10年何かイベントやりませんか? 2】

岩橋誠治

日頃の不摂生がたたり3日ほど寝込んでしまいました。時は、通信作業日前かつ助成団体への報告や監査の準備等のそれぞれの締切が迫る。「10月の連休は予定を入れず、デスクワークに集中しよう」と思った矢先の体調不良。とにもかくにも早く治して作業に取り掛からなければと焦り結局連休中は床に臥せていました。(そして、連休明けの今、「治った事」にして原稿から取り組んでいきます)

人は病気になると心細くなるものです。こんな時、普段重度訪問介護も含め24時間何らかの支援がついている重度知的当事者たちは、人の手配や調整や段取り等で不調な時期に対応します。(コロナ感染が拡大していた時には、本当に各事業所の皆さんの対応に頭が下がりました)

しかし、普段朝夕と休日のみ介助が入り日中活動に出かけている人の場合は、日中活動の場は休む。そして、急遽通所を休んだ分の介助者が必要になる。対応できる人を探すことも大変だが、その間のヘルパー賃金を含む給付費の確保がどうなるのか?という問題が発生します。

たこの木周辺の事業所の皆さんは、懸命に当事者を支えてくれています。様々な対応を考え、様々な調整を行い対処してくれはするものの、ヘルパーに無給で入ってもらうことはできず、事業所が持ち出すというのも違うし、自費で対応してもらおうにも当事者にお金がない。急に起こった当事者の体調不良とその対応に加えて費用の問題も発生することになります。

自治体によっては、事前にそうした場合はすぐに連絡を入れ、緊急対応として可能な限りの支給量を増やすという所もあります。そういう自治体は稀で「本当に必要なのか?」に始まり、「どういう支援を担うのか?」「そこにかかる時間はどれほどか?」などを明らかにしなければ支給を認めない。そうこうしている内に当事者は復調して日常へと戻る。今必要となる支援に懸命に取り組みつつも、そのための原資がなければ、支援の取り組みにもブレーキがかかるのは当然だと思います。

予定にない出来事に対処するためには様々な事が必要となります。そんな状況下で行政とやり取りを重ねる間もありません。結局(本人?ヘルパー?事業所?)誰かが泣き寝入りするかみたいな話にすり替わっていくも、それは本人並びに支援の側とでやり取りする話ではなく、そもそも障害の故の不利益に対し、行政は何らかの対応をしなければならないという根本的な話だと思うのです。

故に、「緊急対応」として支給量をその事柄について増やすという自治体の方法が一つの解決案だと思います。

しかし、風邪を引いたりおなかを壊したりすることが頻繁にあるわけではないし、まだまだ多くの知的当事者たちは親もとで過ごしている分、その場合は家族が対処

する事になる。入所施設の場合はそれも折り込みとなっているので問題化しない。

故に、普段長時間の介助を必要としない知的当事者の場合は、非常にややこしい。

例えば、てんかん発作のある人の場合。その起こり方は様々で、重篤な発作や頻繁に起こる場合は、24時間の介助を必要と言える。しかし、年に1~2回軽い発作があるという人の場合、いつ起こるかわからない発作のために24時間支援者がつくというのはどうなのかと悩む。「いつ起こるかわからない発作が不安でついていて欲しい」という本人の要望があるならそれを基に求めていくことは必要な事だと思う。でも、逆に「一人で過ごしたい」と願う当事者の場合はどうだろうか? 「何かあったらどうするんですか?」の周囲の一言で、長時間の介助が入れるというのは、果たしてどうだろうか? そこには様々なバランスがあり何を選ぶかの天秤もあるでしょう。「不安だから」と長時間介助者が日々つくようになると「やっぱりいらない」となるかもしれない。「一人の時間過ごしたい」と思っても、その事で地域での暮らしが危うくなる場合もある。どこかやってみなければ判らないという面も多々あります。しかし、昨今の流れは「支援計画ありき」で「先ずはやってみて」という発想にはなりません。又、昨今事業所の側も一度獲得した給付費は本人の意向に関わらず「手放したくない」となっている面も見え隠れし、日常関わっていない行政や相談支援専門員には判らない。又、本人も自身の要望を明確に出せないとなれば、日常関わっている事業所の報告を頼りに判断するしかなくなってしまう。

「行動障害を有する者」に対象を拡大した重度訪問介護は、拡大当初に出された利用人数がいきなり500人を超えていたように記憶しています。一瞬、それだけの人が私の知らないところで既に自立生活を始めていたのかと思ったらそうではなく、不足する移動支援の穴埋めや単価の高い身体介助からの切り替えと自立生活者を表す数字ではなかったのです。そして、昨今様々な事業所側の要因や行政の要因から「行動障害を有する者」の範囲があいまいとなっているように感じます。それはある面実質を取る願ってきた事ではあります。しかしその一方で、「行動障害を有する者」にして、「重度知的当事者」に対する給付時間を確保し、本人支援というよりも事業の維持運営に制度や当事者が利用されているように感じる場面がある。

さて、制度で介助が保障されていなかった時代。風邪をひくといった事態が起こった時はどうしていたかと言えば、そもそもヘルパーで賄う事ができないので、当事者を知る人たちそれぞれができる事を出し合い凌いでいました。その時代に戻れと言いたいわけでもありません。ただ、重度訪問介護の対象が拡大される中、当事者の周りには職を介した人たちばかりとなっている状況を考えると時間交渉のみでは解決しない様々な課題が新たに生まれているし、その事を課題として行政に訴えていく事もたくさんあると思うのですが……。ぜひご意見を!!

#Shienin やままり

浜島恭子

全国「精神病」者集団等で長らく活動された山本眞理さんが今年 7 月に亡くなった。御遺族らが「山本眞理(長野英子)文書保管庫 Archiv@MariYamamoto」サイトを作っている。

彼女が書いたもの(含む翻訳)を最初に読んだのは 2002 年の RAC 研究会発行ワンコインブックレット第 1 弾発行で、当時の医療者が常識のように語っていたメンタルヘルスを崩した人の予後について暗い見通し、そんなもの信じていいのか!? との内容だった。

衝撃を受けて、当時編集していた月刊『ぜんかれん』(全国精神障害者家族会連合会発行)という小雑誌にこのブックレットの紹介を掲載させてほしいと頼みに行った。(「フォーラム 90」ニュースレターに眞理さんが登壇する会合の案内が載っていた)。区民センターのエレベーターに乗り帰ろうとする彼女を追かけて、承諾を得た。後日、小雑誌に載ったことで注文がとて増えたと聞いた。

最後に話したのは 2022 年 3 月中旬で、彼女が入院したためにアパートを引き払うことになり、有志数人で片付けをした際に、蔵書の処分について電話で訊ねた時だった。「私の本は当事者に渡したい」「専門職の匂いがしない当事者」。意外に元気な声だった。

部屋にあった「昭和病院闘争」(たしか)と書かれた赤い旗は、「精神医療アドボケイト講座マニュアル」などの他の小冊子と共に一しばらくお預かりしてくれた人を経由して一ご遺族に渡った。

偶然だがその前の引っ越しの時も荷造りを

手伝ったのだった。2008 年頃に中野の神社の土地にあった絆社にしばらく通った。その時にスウェーデンのパーソナル・オンブズマン(閉じこもりの人たちの扉を根気よく訪問し続ける非強制的な働きかけ)の話聞いた。

2012 年にはウィル・ホール、イカルス・プロジェクト、フリーダムセンター共同発行『精神薬から離脱するためのハームリダクション・ガイド』日本語翻訳プロジェクトに共に参加した。(少し前に、J.モックリフ著『精神科の薬について知っておいてほしいこと:作用の仕方と離脱症状』(2022 年、日本評論社)が出て、ああ、このような本が手に入るようになったのだなと思った)。

「オープンダイアログ」の DVD 上映会やファミリーグループカンファレンス(FGC)研修など、可能な限り強制介入を避け、対話に基づく共同決定を試行錯誤する実践について、眞理さんの紹介を通じて知った。2017 年には韓国の精神医療と人権のイベントに同行して西大門刑務所歴史館を訪ねたこともあった。

20 年来、実に様々な集会で彼女のベレー帽姿を見て来た。もうあの姿が見られないのだなと苦しく思った。2 年経ち、訃報を聞いた。棺の中の彼女は痩せて、薄化粧で(彼女の化粧した顔を見たことがなかった)、面替わりして見えた。ねむれ。

精神の不調がある人へのトラウマインフォームドな働きかけが精神科ケアの主流になる日が来ることを願って。

(はましきようこ 雑誌家ときどき支援員)

「少年時代 3」65

私が正常な学校生活と言うのは、社会が作り上げたルールに基づいて作られたもので一般的に正しいと思われた生活である。そして、異常な日常というのは家庭ではありえない生活を言う。例えば、食事の時間が必ず決まっていたり、寝る時間が決まっていたり、起きる時間が決まっているという社会性を帯びたものだったからである。

普通、社会に出る前はいい加減なもので、時間ごとに何かしなければならないというのは学校ぐらいで、それを家庭に持ち込むなどしんどいだけで何のメリットも見出せない。ましてや幼稚園の子供から20歳の子供に適用するのは酷過ぎる気がする。だが、これが児童養護施設の当時の状況であった。

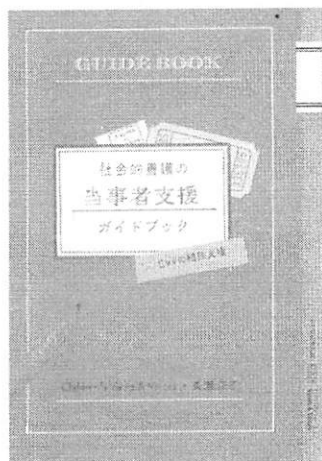
私はこの当時の時間の中で生きて来た。そして、現在は孤独に生きている。

当時の生活は今や崩れ去り、残っているのは過去の思い出だけである。ただ、タイムマシンがあるなら高校生ぐらいに戻ってみたいと思う。

鷹野 洋(がんの ひろし) CVV の当事者スタッフ、元介助者

CVV(Children's Views and Voices)とは、子どもの視点と声を大事にしながら、養護施設などで育った経験のある人たちをエンパワメントすることを目的に活動している団体です

『社会的養護の当事者支援ガイドブック
CVV の相談支援』
Children's Views & Voices+長瀬正子著
頒価：900 円
問い合わせ
大阪市北区西天満 4-1-4 第三大阪弁護士ビル
503 号 葛城・森本法律事務所内
CVV 事務局
Tel：06-6130-2930 fax：06-6365-1213
MAIL：yes_cvv@yahoo.co.jp



社会へ向けてそのワ 立野 陽太

10月13日に世田谷区の羽根木公園で雑居まつりが開催されました。毎年、夏にキャンプに行く仲間たちと一緒に「バザー」とキャンプの知り合いが山梨県の勝沼で育てたぶどう販売の店を出店しました。

雑居まつりは7個の広場があります。

私たちは「核と戦争と暮らしを考える広場」に所属しています。他にも「この指とまれの広場」、「神戸発ばちばち・みな恋の広場」や「アジア・アフリカのまち」などがあります。

今年度の雑居まつりも打ち上げ飲み会が開催されてとてもうれしかったです。

場所は昨年と同じ、下北沢の居酒屋で行いました。参加人数は17名

でした。

次回はい月18日に山梨県の勝沼に一泊二日で、ぶどう農園のお手伝いに参加する予定です。

じゃすみん通信 ～第 86 回 薄情？ の巻～

大野沙彩(じゃすみん)

今年に入ってシェアラウンジというものを利用し始め、今回 2 回目の利用なんですが、とても快適です。飲み物は飲み放題だし、ちょっとしたお菓子も食べ放題。しかもカフェと違って、周りも仕事や勉強などで使っている人がほとんどだからとても静かに過ごせます。カフェに入るより割高だし、時間制限みたいなもの(予約した時間を超えるとお金取られる)があるので、良し悪しはあるんですけど。でもとても快適に過ごせます。甘い飲み物飲みすぎてしまうし、お菓子も食べ過ぎちゃうんですけど笑。でもストレスなく作業ができるので今後も使おうと思っています。シェアラウンジの話が長くなりましたが、予約終了時間まであと 30 分しかないんです笑。

ということで、今回の本題なんですが、最近「NARUTO」というアニメを見まくっています。家に帰っては NARUTO を再生し、編み物しながらも NARUTO を見えています。仲間を裏切って自らの復讐のために悪の組織に入った友達を助けるために、奔走するナルト君とその仲間たちの話なんですけど、まあまあ面白いです。最近のアニメではないので、最近のアニメが NARUTO に影響されてるんだ点が多々あって、面白い！内容に関して、悪に自ら入った仲間の「サスケ」を助けるために、めちゃめちゃ体張って、命かけてナルトやその仲間たちが戦うんですけど、いまいち私はそこまで共感できない部分があるというか。自分の仲良かった友達が悪に寝返ったとして、それを想像してみるんですけど、その友達のために命までかけられるか？と自分に問うた時、「無理だな」というのが私自身の答えだったんですね。なんかそうなった時に、「私って薄情？」と思ったんです。自ら悪に入ってしまったのだから、そんなサスケくんなんてほっとけばいいのに、とアニメを見ながら何度思ったことか笑。本人は悪じゃなくて、悪の組織に吸収されちゃったのなら、私も頑張って助けようと思えるかもしれない。けど、本人が望んで、自ら周りを裏切って出ていったのだから、そんなのほっとけよおと思ってしまいます。私が薄情なのだろうか？一般的にはどうなんですかね？頑張れナルト！！って感じで応援できるのかな？応援はできるけど共感度は薄かったりするのかな？気になる。

今具体的な例が出てこないのですが、私って案外(?)薄情な人間だなと思う時、あります。「別に」と思ってしまうというか、そこまで深追いしないというか。障害当事者とのやりとりや自分の行動、考えについてぐるぐるモヤモヤめっちゃ考えることはたくさんあるんだけど、でもそれってあくまで自分目線というか。もちろん相手目線にも立って考えるし、それが大事とも思うけど、けど、そこまで深追いはしてないというか。相手のことはいくら考えても正解はわからないのだから、考えられるところまで考えてモヤモヤして、最終的に「まいった」で終わらせるというか。なんか説明が難しいし、これは「薄情」とも違うのかもしれないけれど、「人は人、私は私」感があるというか。薄情ってマイナスなイメージだけど、でもそうでもないかもなとも思うんですよ。なんというか、「別に」「まいった」「あっそ」みたいな感情って、大事だよなって。特に障害当事者と向き合っていると、そうしていかないと先に進めないみたいな場面が多々あります。考えて、諦める。でも都度考えることは辞めない。考えて、また諦める。その場その場での「薄情性」、こんな言葉あるのか知らないけど、結構大事だなと思うんです。(間に合った！)

行ったり来たりして考えていることなど10

井上武史

さて、沖縄編の二回目です。JICA 沖縄の高嶺先生の研修は、施策や法制化の講義が世界編、日本編、沖縄編とまずつづいて解説され、そのあと就労支援をしている団体や自立生活センターにも見学にも行く、インクルーシブツーリズムを体験しに山に泊まりに行ったりもしたり、その他もろもろこれでもかとメニューが詰め込んであり、研修に来たみなさんはそこからそれぞれアイデアをもらって国に帰り、作ったプランを実行してもらうことになっている。JICA 沖縄は、ゆいレールと呼ばれるモノレールが北に走った経塚という駅が最寄りで、沖縄は現在この新しい交通機関に沿って那覇市の北側がどんどん開発されている最中で JICA の周辺もまだ敷が残っているところもあれば、工事をして整備されようとしているところもある。

JICA の研修には、通訳と海外から来て日本の生活がわからないのをサポートしてくれるコーディネーターと呼ばれる方が研修中付き、このコースにはナオコさんという年配の女性がコロナ禍でオンラインで実施されたときから担当している。対面で担当したのは昨年が最初だったといい、ぼくは昨年メキシコから来た自立生活のネットワークでいっしょに活動している車椅子の仲間会に行き、そのときにナオコさんとも知り合っている。

沖縄の方で、幼い頃に「口減らし」のためにアルゼンチンにやられた経験を持つ。30歳になる前に沖縄に帰って来て、フォークランド紛争の頃にはブエノスアイレスの北の沖縄出身者のコミュニティーにいたという。昨年彼女が通訳をしているのを聞いてすぐにとっても上手に訳しているのでそう言ったら「わたしアルゼンチンにいたんですよ」と教えてくれ、どうりでと思った。

それでも訳でとても気になるころがあって、それが彼女の通訳の上手さとあまりにも不釣り合いで気になってしょうがなくなった。それは英語でいう、persona with disability にあたる persona con discapacidad という表現で、これは、disabled person と障害と人が一体となっていたのを、with を用いて切り離して社会モデルに対応させたものだ。アルゼンチンは今では借金大国で有名であるけれども、かつてヨーロッパ並みに栄え、今でも他のラテンアメリカの国に比べたら比較にならないくらい大きく予算もたくさんある国には変わらない。80年代まで軍事政権が長くつづき、反体制派の人たちが多く亡命したり、収容され虐殺され現在でも行方不明になったりという暗い歴史もある。

こうした負の歴史の反省から、アルゼンチンは世界的にも最も人権意識の高い国の一つとなった一方、「収容」を基本とした医療モデルがいまでも強いのが特徴でもある。これは同じような経験をしたウルグアイやチリにも共通する特徴である。現在、ラテンアメリカどこに行っても、まず discapitado っという表現を聞くことはない。すぐに「差別的」だと注意されるからだが、ぼくが2019年に初めて訪れたときに、アルゼンチンではまだ誰もがふつうにこの言い回しで「障害者」と言っていたのにまずは驚いたのだった。ところがナオコさんは講義中などこの表現を連発していたのだ。

アルゼンチン帰りのナオコさんがこの表現を使うのはよくわかることだったのだけれども、さすがに障害者のことを学びにラテンアメリカから来た研修員の人たちには違和感あるだろうと言ってお知らせしたのが昨年だったが、今年来てまた一つ気になることがあった。それは見学に行った先で、「社会モデルや人権モデルに基づいて」と説明されていたのを「社会モデル」は訳しても「人権モデル」は飛ばして訳してもいいのに気づいたからだった。

世界の片隅で支援をつぶやく 115

タイムカプセル

～社会的養護で育つ子どもたちの暮らしの場所から～

長瀬 翼

毎年10月は以前に僕が働いていた自立生活センター・リアライズがある大阪の泉州地域で、だんじり祭りが行われます。いま暮らしているのは京都の北の方で、泉州は大阪の南の方なので距離にすると80キロくらい離れています。この距離を毎日のように3年間通勤していた自分の根性に恐れ入ります。

僕の子どもは保育園の年長まではこの地域で育ったので、今でもだんじり祭りは好きなようです。祭りだけではなく、ここで僕たちが築いてきたつながりもあるので、この時期に合わせて家族みんなで行って来ました。

事前に連絡入れなくても、祭りに行っておらなければ知っている顔ぶれにバッタリ出会えるので、僕は行き当たりばったりの成り行き任せです。僕は段取りが苦手なので、スケジュールに余裕を持って自由に動けるようにしておきたいというのもあります。

町を歩いているだけでも浦島太郎になった気分でいろんなエピソードが浮かんできます。そして久しぶりの再会を果たすと、過去や現在の話を行ったり来たりします。リアライズで出会って一緒にやってきたことで人生が変わった部分があるので、今思えば驚くほど近い距離感で関わり合っていました。なので、当時一緒にやっていた面々には特別な思い出があります。

いまはそれぞれの道を歩んでいるので、もう一緒に働くことはない気がしますが、いつでも応援していて、もし助けが必要なときがあれば力を貸したいなと思っています。

僕にとってのリアライズでの10年間は、30代のほぼ全てが詰まったような場所でした。そうすると40代は社会的養護に踏み込んでいった時代と言えるのかもしれません。10年単位で考えるとすでに前半は終えていて、もう後半に突入しています。そろそろ満を持して本領を発揮していきたいものです。

たこの木インフォメーション

たこの木クラブ公式ホームページの URL は、<http://takonoki.net/> です。

◆会員募集募集中！

2024 年度会員登録をお願いします！

たこの木会員 ￥6,000/年 賛助会員一口 ￥3,000/年

通信購読会員 ￥1,200/年 目標額 120 万!!

※年末カンパもどうぞよろしくお願いします

郵便振替 00100-2-24685 たこの木クラブ

銀行振込 三井住友銀行 永山支店 普通 6424332

※銀行振り込みをご利用の方は、メール等でご一報いただくと
ありがたいです

※譲ってください

書き損じのはがき・事務用品(ノリ・セロテープ・ハサミ等)

※大量のクリアファイルを頂きました。

たこの木では持て余すので、ご入用の方にお譲りします！

たこの木関連本販売中！

「良い支援？」「ズレてる支援！」「支援のてまえで～たこの木クラブと多摩の四十年」

「知的障害・自閉の人たちと『かかわり』の社会学多摩とたこの木クラブを研究する～」

三井さよ ※たこの木ひろばで購入できます！

テレホンカード販売中：災害時、携帯よりも公衆電話の方がつながりやすい！500 度数
＝400 円でお分けします。NTT の固定電話をお使いの方は電話料金の支払いにもご使用出来ます。

《定期の予定》

・毎週水曜日 13:00～18:30 すいいち企画 たこの木ひろばにて

・第3木曜日 10:30～17:00 たこの木通信発行作業のお手伝い募集！

場所：11 月はヴィータ8階和室です。

(毎月部屋は変更されるのでご確認を)

<その他の予定>

・フィットする支援をめざす会 10 月 1 日(火)19:30～ZOOM及びたこの木にて

たこの木通信ご投稿お待ちしております！

※B5版1枚単位でお願いします！！

※ご投稿の締切は第3木曜日発行作業日の前の月曜日です。

但し、ページ割の都合上、ご投稿される方は、発行月の前月末までにご連絡を！

※連載記事も歓迎！通信の感想や日々の出来事や想い・イラスト等なんでもOKです。

※YouTube たこの木チャンネル開設中！

※詳細は、たこの木ブログでご確認ください(<http://takonoki1987.seesaa.net/>)

※水曜日のすいいち企画の時間以外は、個別の対応でたこの木ひろばは留守がちです。ご相談等がありましたら事前のご連絡ください。

※通信発行作業を手伝ってください。

最近手伝ってくれる方が少なく、作業を終えることができるかと毎月ヒヤヒヤものです。ほんの少しの時間でも結構です。毎月出なくても結構です。

お手伝いいただける方は、ご連絡ください

※発送作業会場までの送迎を担ってくれる方急募！

作業場所の変更に伴い、会場へ一人ではいけない人がいます。

第3木曜日 12時半～13時間で、送迎ボランティアが可能な方ご連絡下さい
できる月のみでも結構です。

●たこの木通信PDF版お届け中:通信のページ数並びに発行部数が増え続ける中、
よろしければPDF版で受け取り可能な方はお申し出ください。

PDF 版たこの木通信 (準備号～400 号) DVD 販売中



1987 年 9 月に誕生して以来毎月発行してきたたこの木通信。

その想いや取り組みの歴史等々を知るために、是非ご購入下さい。

※既に、前回販売した 300 号をご購入された皆様へ

300 号～400 号を収めた「追加版たこの木通信 DVD」の予約を受け付けます。

たこの木クラブまでご連絡ください

【多摩市で一人暮らしをしている方の支援に関心のある事業所をご紹介ください】
何処も人手不足が深刻ですが、重度知的当事者の支援に関心のある居宅介護事業所を探しています。ぜひ、たこの木までお声掛けください。又情報をお寄せください

「ムーミン」の物語が教えてくれること

(「ほんの紹介」80 回目)

「ムーミン童話とはなにか?」という講演記録をいまでもWEBで読むことができます(検索してみてください)。高橋静男さんという方の大阪府立国際児童文学館退職記念講演です。1998 年という 26 年も前のものですが、古さはまったく感じません。これを読んで、ムーミンの物語は障害者支援にかかわる私にとって、大切な話が含まれているし、そこから出発して、さらにムーミンの物語から見えてくることがあると感じました。

この講演で高橋さんは**ムーミン童話では「自己疎外から解放(救済)に至る物語が、延べ 20 回以上も繰り返され、ムーミン童話全体を覆って」**いるといいます。ぼくは「自己疎外からの解放」とか難しい言葉を使わなくてもいいと思いました。それは、**いろんなことを抱えながらも、それらを抱えたまま元氣になっていく(元氣に過ごす)物語だ**という理解でいい、そんな風に思ったのです。

それって、障害者支援に関わる仕事のコアの部分ではないでしょうか。森田ゆりさんはそれをエンパワメントと呼びます(ぼくの個人的な解釈ですが)。この講演で例として出されている、モランの話があります。モランは海に住む怪物として、海を凍らせたり人を食べたりして、誰からも怖がられ、忌避・排除されていますが、ムーミントロールは、ある日モランがカンテラに反応をするのを見て、毎夜、カンテラを見せに行くようになります。そしてある日、モランは自分のダンスをムーミントロールに見せるようになります。これを人が他者との関係の中で、自分自身のかけがえのなさや気づき、人との関係の中で自らを肯定し、元氣になっていくという森田さん流のエンパワメントの物語だと思うのです。そして、この講演の中で高橋さんは**【<大好きなこと>を持つことと、それをもって<他者と関わる>ことが、他者と自己を解放する原動力となる】**といいます。大好きなことはなかなか見つからないですが、本人が受け容れられる場所で<他者と関わる>ことが、それなりに元氣になっていく原動力となるの

は間違いのないと思います。また、それはパニックを減らすことにもつながりそうです。そして、この講演では触れられていませんが、大切なのは、**それが誰かから直接的に教えられるのではなく、本人が気づくプロセスがある**ということです。ていねいに準備されているときも、そうでないときもありそうです。ムーミンの物語の作者が意識的にそうしたのかどうか、私にはわかりませんが、ムーミンの物語の中で、自分を見失って困っている人たちは、他者と交わる中で、誰かから教わるのではなく自分で気づいて、あるいは意識しないまま元氣になっていきます。

さらに見落とせないのは他者へのリスペクトです。ムーミンの物語では他者へのリスペクトが底流に流れています。そうじゃなさそうな場面もあるんですが…。そのリスペクトは直接的に表現されたり、されなかったりもするのですが、みんながみんなを大切な存在として関係を構築しているように感じます。それは元氣を回復する場を構成するために欠かせない要素だと思うのです。それを「場の力」と浦河べてるの家の向谷地さんは名づけました(これもぼくの解釈ですが)。

自分を見失うのも、開き直ってそれなりに元氣になるのも自分だけの問題や自分だけの力だけではなく、環境や関係性に大きく依拠しているようです。環境や関係性によって人は元氣をなくし、また元氣を取り戻します。

社会運動が趣味と言いながら、いつもさぼっているぼくとしては、社会を構成している構造的な暴力に抗して、なかまといっしょに立ち向かうみたいなことが、もっとあればいいなあと思います。でも、どうなのでしょう。ぼくが読んでいないムーミンの物語にそんな話があるのかどうか知りません。まあ、なさそうな気もしますが。ともあれ、ムーミンの物語を全部読んだわけじゃないっていうか、少ししか読んでいないぼくがこんなことをいうのは口幅ったいことこの上ない感じもあるのですが、ちょっと感じたことを書きたくなったのでした。つたまたさひで(相談支援事業所こころ/知的障害のある人の自立生活を考える会/丸木美術館/他)

愛チャン-00043物凄い強い腕力を持ったマンチャン

ワヨネ♥」と私はマンチャンにヒソヒソ声でマン子チャンの耳元で言いました。

マンチャンは今度は前より力を込めて思いつ切り込めて私の《人工の》体を抱きしめました♥

そして私は「マリモチャンそんなに私の《人工の》体を思いつ切り抱きしめたら苦しいよ。息ができないんだから。♥マリモチャンは私を絞め殺す積りなの?」と私は苦しい息の元で喘ぎながら言いました♥

この度はマリモチャンが私に「ごめんなさい。私愛チャンの魂を危うく父なる神様の御許に召されるところだったワ♥」

今度は私がマリモチャンに言った事は「マリモチャン気にしないで。私たち人間だけでなくすべての生命体全ての魂はいつか父なる神様の御もとに召されるんだから大丈夫よ。気にしないで。」と言うと私はマリモチャンにとびっきりの笑顔を見せました。

マリモチャンは安心したような仕草をすると私の《人工の》顔を見つめました。そして長い長いため息をつきました。

次に私がマリモチャンに言った事は「マリモチャンこれからも仲良しでいましょうネ♥これからもズット心友としてネ♥」と私はマリモチャンに言いました。

マリモチャンは安心したような顔をするので「私ネ∞愛チャンから嫌われたらどうしようかな?と思ったの。」と言ったので私が自分の《人工の》視線をマリモチャンの方に向けました。

そうしたらマリモチャン眼から涙が流れてるのが見えました。

次は私がマリモチャンに「マリモチャン一体どうしたのよ?そんなに泣いてサッキ言ったわよネ♥アンマシ泣いたら良くないッテ♥」と私マリモチャンを諭すように言いました。

マリモチャンは私に対していかにも申し訳無いような表情を私に見せました。

そしてマリモチャンの表情はいつもの笑顔に戻りました。そしてマリモチャンと私の間に穏やかな雰囲気を訪れました。

私たち2人はハグを仕合しました。

そしてマリモチャンが私に急に Kiss をするのです。

ビックリした私がマリモチャンに言った事は「マリモチャン一体ど・どうしたのよ。私に Kiss を私にして私たち2人とも女の子なのよ。」と言うとマリモチャンの顔を見つめました、

マリモチャンは私にいかにも申し訳無い事をしたような顔をするので「愛チャンごめんなさい。私あまりにも嬉しかったから。ついやっちゃて本当にごめんなさいネ♥」と言う答えがマリモチャンから帰って来ました。

By Sofia The Little Princess

ピープルファースト奈良大会に 聡子さんと行ってきた。
聡子さんの同僚の 山崎さん、その介助者 横田さん。
たこの木 すいいちに 来ていて、さん。その介助者
さんと、6人で。ゆかいな珍道中。あんたに
はいけた笑顔も あんたに たくさん 見たのは、
はじめてかもしれない。聡子さんは、山崎さん
ビールをおいしそうに 飲むのを、となりで、とって
うれしそうに見て、よく笑った。山崎さん
幸せ いっぱいと 聡子さんも 幸せなんだと思った。
楽しみにしていた 鹿とも たくさん 会えて、さ
背中を なでた。もみじの 写真も いっぱい 撮りに。
聡子さんの 荷物が 大きく重いので、交代で持った。
私は腕力には 自信があるので、大丈夫だけど、
聡子さんは「つりみちゃん、大丈夫？」と言って、
交代してくれた。

矢張り合いや、ほとんど 会ったことない人、全く 会った
ことない人。もうこの 人ごみの中に 見つけて
「あ、〇〇さん。」とか「さき△△さん居た。」
と 教えてくれた。なんで わかろの？

これだけの 能力、カンの 良さ、たと、ふたん。
鈍くて カンの悪い 周囲に 合わせるのは、
たいへんだろうな、と 感じた。能ある 鹿は
つめ隠す、だ。隠し続けているんだ。

お土産物屋さんで、「理乃さんに、何かいいかな？」
と 声をきいたら、聡子さんから、鹿の模様の、
大人っぽい、甘い ガーゼタオルを選んでくれた。
宿で、鹿の写真の 絵ハガキに、聡子さんは、
花の糸を、私は 短い文を書いて 理乃さんに
送った。

9月、市役所に行くと

担当者 と 会った。理乃さん
入院した場合、聡子さんに 泊まり介助を 入ける
ための 話し合いた。担当者から、

「聡子さんの 自立に向け、支援は、どんなこととし、
今後 どのような 取り組みを 考えているか、そして
聡子さんは、どんなことか できそうに 感じたか」
を 聞いた。不快な 質問だった。さいしから、

聡子さんは、「できない」から「できる」ように ならな
くては ならない 存在と 想定されている。

私は、「まず、自立とは、何かを ひとりで やること
ではない。その人から 幸せに くらふことだ。」と
言わざるを得なかった。

おそらく 原初から、生きものたちは、人は、助け合っ
て 生きのびてきた。必要なものを 過不足なく おさな

まわすことで、みゆや、みらや市を 形成して きた
のではないかな。

ひとは 欠点、こそが 魅力であるように、
できないことは、他人を うけ入ける、おきろだ。
他人を 必要とすることは、コミュニケーションで
あり、豊かした。ケアを コストとしか 見る
ことのできない、そんな 見方を 根本から 変え
なくては ならない。世の中に、

障害を作り出している側から「健全」と
いわれ、そのために、被害を被る側から
「障がい者」と 名付けられている。



カラス、かみ歩いていゐる。
カラス、「きいいたわ、
きみ。」と 声かけて
も、しらんぷり。

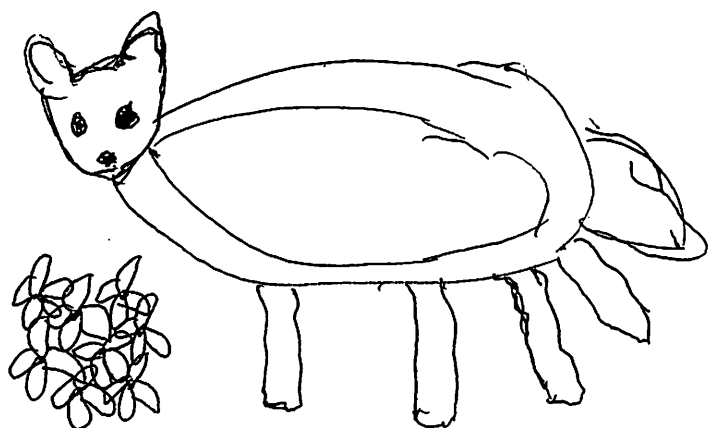
ひとけのない 森を 歩く。

いげめの中から 息をひそめ、私を見ている
存在。私は 気付かずとも、私は、
彼らの 場を 奪って、破壊して わかもの顔
でいる人間で、私たちに 見つからぬ
よう 警戒を あたらす、ひそやかに くら
ふ動物たち。いや、人間も。彼らに
気付かれないで、平気でいることはすべ
に、罪だ。

ともあれ、理乃さんと 聡子さんから、ふたり
ぐらしをしていること、ふたりから、力強
く くらしていること、は 疑いおのなないこ
だ。市は 必要なことは、してほしい。
次の 話し合いから ための しみた。

ピープルファーストから 帰った 翌日、聡子
さん ピアノレッスン。この日は、これまで
練習した 9曲、全部と、弾いた。
はじめてだ。いつも 多くて 6~7曲。
先生から「どうしたの? とて 上達
してる。」と ひくりに していた。
といめられていたものから 解かれた
ように、この日の 聡子さんは、堂々
と 弾いていた。ピープルファーストに
行って よかった。

理乃さんと、歩く。いつもの 角と曲か。と
坂を下って、くすのつの びら下から トニネルの
入口。金色の 光。ネコミラジカ、あかりの
ように とまろ。車椅子を 押す 腕に
虫さかきとまろ。ふと 息を かけると 飛んで
行った。ふんやりとした トニネル、声か
響く。理乃さん。」と 呼んでみる。



耳窓子士人

足もとに 白い虫葉が 遊んでいる。
風に乗って 小さな きみどりの 虫葉が やって来た。
二匹は 少し たわみあれて 行ってしまった。
はじめて 見た きみどり色の 虫葉。
追いかけて 行くと 土の上で 休んでいた。
それは ちぎれて 飛んできた 葉、ぼたんと。

りのせとに 行くみち 赤い雲が 落ちてくる。
つやつや 光る固い、一番先に 赤くなる。
ハナミズキ。
理乃さんに 見せよう。
「ほんとは! 秋だよ。」
きと そう言うたさう。
拾って ポケットに 入れる。
今は、もう、ことはを 言わない 理乃さん。
ほんとうの 気持ちは わからないけれど。
理乃さんが 居るから、私は、見せたいのだ。

夕方。
窓の外、暮れていく空。
理乃さんと ベランダに出てみる。
☆ 風が 気持ちいいね。
細い 三日月が 白く 浮かんでいる。
理乃さん! 見て。あそこに 三日月があるの。
こっち、ほら。 見えて?
指さすけど、理乃さんは、そっちを 向けない
のかな。
車椅子をもっと 外に向けて、背もたれを
少し 倒す。
広い空、バウ色の雲は 陰影を深め、
理乃さん、三日月、見つけた?
光を 増してる。

『チャンスタイム』を広報する1

タブー

あ

東久留米・グッドライフの利用者・平野さんと介助者・伊藤さんによるアート・プロジェクト『チャンスタイム(以下CT)』: 平野さんの絵は味があるし、CTの作品は面白いし、ファンも多い。それに加えて制作スタイルがすごい。「衝撃的」といえる。まあ、「障害者アート」、アウトサイダー・アート、だいたい面白いし、初めて体験すると衝撃を受ける。

それとは違う。重度の知的障害のある人の描き上げた作品を、描き足して、一部は削って、色を塗り直す。切り貼りしてコラージュにもなる。いいのそれ? (棍棒を持った) 誰かを怒らせるやつじゃないの。自分の場合、「衝撃」の多くは勘違いで、後で冷静になる。これは違う。「タブー」を破ってる、と思った。

私との関係は、平野さんには介助者として月に2回入っていて、伊藤さんとは仕事仲間だ。平野さんに初めて会ったころから「描く絵が面白い」と思っていて、そのうち「伊藤さんが何かやってる」と眺めていたら、どんどん大きくなって先月の個展『チャンスタイムやってきた展 Vol.3』は、町はずれの「アパートの一室」という「アクセス難」ながら2週間で500人(スタッフ杉山さんの推計)が見に来た。

(あーやっちゃった...、この人なんにも分かってないのね、かわいそう) みたいな空気になった。15年以上前の、入所施設の支援員3年目くらいのときの記憶。

思い出すと今でも叫び出したくなる、恥ずかしさと屈辱で。余暇の日中活動「絵画」の時間に、部屋に立ち寄ると、自分の担当する青年の画用紙がほとんど白紙だった。楽しくお絵かきしようと思って、横に座って空いたところに本人が好きそうな花とか魚とかを描いた。それに合わせて青年も何か描いた。先輩職員が見つけて、実に困った表情で「あー、そういうのは、もうやらないから。本人の作品作りを支援する活動だから。『作品』だからね...」言っても分かんないかな〜、みたいな、本当に困っていた。「この人かわいそう」みたいな感じになっていた。

約10年前、1993年の「パラレル・ヴィジョンー20世紀美術とアウトサイダー・アート」展、1995年からの「エイブル・アート」あたりから「知的障害福祉にアートを」何度目かのブームが来たようだ。流行り物好きの職場にも入ってきた。関連イベントもたくさんあって、元気のいい小さな事業所とも連携してずいぶん盛り上がった。

自分は職場のアートチームの雑用・下請け係の位置にいて楽しかったが、最初のトラウマがあったので「アートの支援とは何ぞや」といった話には近づかないようにした。当時は、就職氷河期からリーマンショックで「脱成長」みたいな脱力した雰囲気もあったからか、リベラル〜エコロジーな人たちの企画が多く、よく混ぜてもらった。



そんなこともあって、CTの制作スタイルを知ったときは「それいいの?!」と驚いた。けど、2人とも自然体で作品作りを楽しんでいるように感じたから、自分の(勝手に作った)タブーを破っていて痛快でもあった。あと、自分のように(本人に断ったものの)急に割り込んで落書きしてるわけではないから、別物ともいえる。

個人的体験によって個人的に「すごいプロジェクト」になっているわけだが、世間一般的にはどうなんだろう? 流行りものに感化されて後輩にマウント&心の傷を残す先輩に一矢報いることはできるんだろうか(CTスタイルと別物ではあるが「創作スタイルは多様である」という意味で。そう、まだ引きずっているのである)。

ネットに落ちている論文や図書館で少し調べてみたが、まったく整理されていないので思いつくところを書いてみる。テーマはざっと「判断能力が十分でない人と(特に職業支援者との)共同作業」について。

- 知的障害があるか。判断能力があるか: 本人が判断できて「やっていいよ」と言えば何の問題もない。流行りの「権力関係」とかで物言いがつくかもしれないが
- 搾取する関係になってないか: どこかの作家が作品を利用して利益を得て、当事者本人は異議を言えないか、そもそも気づいてない。
- 当事者は、素材となった作品を「完成された作品」だと認識しているか。変えないでほしい、残してほしいと感じているか(平野さんの場合は気にしてなさそうに見える)
- そのへんの野良アーティストがやるのと、平野さん現場で働く「支援職」がやるので何か違うのかどうか。
- 冷静になってみると「知的障害者との共同創作活動」自体はたくさんある。ただ、絵画の原画に直接手を加えるのは珍しいと思う。
- 付随する作業として: ある論文では「陶芸」での共同作業がテーマだった。とくに「火入れ」は創作の重要な過程だが、支援者が行い、質の向上を目指すという意味で共同制作と言える。通常の役割分担として広く行われていると思う。
- グッズ制作: 作品をコピーしてデザインとして組み合わせて、Tシャツやバッグを作ったり、ポスターにしたりも良くある。厳密にして利用料を払ったりしているところもあるが特に問題にならない。やはり「原画」かどうか大きいのか
- プロデュース: そもそも「制作者」が当事者本人ではないプロデューサー(CTの伊藤さん)ということなら問題ないのでは。本人に対価を払って表現・デザインしてもらい、それを使って目的の作品を作る。そういうことなのか?
- 舞台芸術ではふつうにやってる。健常者と混成の音楽、演劇、舞踏。これは「プロデューサー」枠でいいのかな。「障害者との共同制作」についての論文は、舞台芸術が多かった。「グレイテスト・ショーマン」のような良くも悪くも歴史と反省を経て、現代ではそれほど問題にならない印象(論文は面白かったので次回触れます)
- 原作提供: 昨今物議をかもしている「原作者」ということにすれば(原作者の承諾があれば)改変できるのか。いや「判断能力が乏しい」のが前提だからだめだった。

SNSでの公式の紹介文:『チャンスタイムとは「利用者」平野光宏と「介護者」伊藤昌彦が、障害者の自立生活支援を通じて出会い、一緒に絵を描くことから始まりました。作品を介した人々との交流の中で、福祉の枠組みではどこか絵空事に思えた「社会的包摂」の理念が身近に感じられた事を機に、2018年より絵画作品の制作や展示、イベント運営などの活動をしています』

【自由律の句を嗜む 梅 ワチャおギラギラ】

理念・思考の基本・魂(スピッツもといスピリツ)を明け渡してしまわないために

- ・優先の順位を誤らない
- ・目的を手段と転じない
- ・あと1つ思い出せない・何だったっけなあ

この分野で入れ歯もとい言えば

・ショーガイとやらってゴッホもといゴッタの誤訳にマトウダイもとい惑わされない混ガラガらない、つまりはインペアメント(器質の差異)ディスアビリティ(能力の限界)ハンディキャップ(環境の不適合)これらにわたしはアビュース(差別は憎悪しての排除)を…で思い出した上記ミツツナもとい3つめは・原因と結果を近藤勇もとい混同しない・でしたあ

この混同ダラケだけでも「マイノリピーもといノリティーオブマター」である、ほおんと、いい迷惑！大迷惑！！！テメエ等とことは環境が違えんだよこおのスットコドッコイがっ。

少数派は少数ゆえ「そんな人はいない～そんなのは人でない」と蔑ろ、少数派に不適合が張り巡ら…は左利きの方がストレスと相似の構造…に声を上げ適合させてきた上げられる少数派は眼、耳、肢体、そして内蔵など。さて、この「声」とは単に音声発声ではないとはイワチャンもとい言わずもがな、脳という気質～思考の能力(は優劣ではなく差異)までは先天もしくは固有で個人の問題。単なる差異を優劣へとネジネジ歪めしが社会構造に、抗う有効手段「言語」を未だ、どころか肢体の当事者が主張(も最早ゴネ)を楯に更なるハンディが思考回路の舞姫もといマイノリティを襲う(襲わせている殿上の非道)。

整理しませんか、しないからいつまでも「～支援」の後のウンコもといハテナは消えない、どころか腑抜け制度は悪用され放題で金魚の糞は長く長く悩ましく重く脳の少数派に桎梏、吾輩は猫みそもとい寝込みそうせき。

久々に開けたアレん中に丁度2年前タコ通、表紙はハロウィン、ハローウィーン。わたくし『世に万葉～』が新札を予言とクチグチにザワザワのサザンめき…

して1年前は？と、運命の出逢い！かもしれないこともないとはいえなくもないかしんないとは無頓着ながらタイミング合いすぎでアラララ？ウムムム！勘違いかもしれないけどいや単なる偶然だろうけどもだとしてもこんなに嬉しい勘違いなら…としたためちゃったりおくっちゃったり(割愛)環境因子の重要性を痛感実感体感なう。

“渋スクのポリスはDJ ちゃうMC さ収穫祭”

P.S.タコ通の窮状を、読んでいる人は知るから何かと気遣いはあろう一方、読んでいない(運動体がスッカリカリカリ営利目的の理念ゼロ)事業者は放置、濡れ落ち葉が負の遺産、窮状に追い討ち主因かと。いっそういったん「無連絡はPDFに自動切替」告知してみたら？勿レスポ無きは実行、年内を目処にとか。

P.P.S.S.語学こそ環境、ネイティブしかり。ってことは思考回路の少数派(非言語優位派)に合理的配慮は「共に」も良好な関係あってこそ。それ保証してください、これが唯一で最善、知らんヤカラが無断(も毒断の偏見と利己)で研修したり委託したり資格やら制限やらかけてんじゃねーよ、でもってホイホイかけられてんじゃねーよって！

「我ら、解決の路(?)をエラばない」遵守どうぞ～

フィットする支援をめざす会

末木あさ子

2024 年 10 月 1 日（火）19 時半から ZOOM で「フィットする支援をめざす会」の定例会が 9 名の参加で開催された。

8 月 23 日に面会に行った保佐人と T・M さんは懲罰中で面会できなかった。9 月 5 日付の手紙が T・M さんに届き懲罰に至った経緯と「面会出来なくて、ごめんね」とあった。

9 月 19 日に別の支援者宛に 9 月 16 日に発生した事由で懲罰が科されるため、9 月 27 日の面会が出来なくなったことを知らされた。面会を予定していた H さんと T・M さんは出かける前だったので、辛うじて間に合った。

T さんからの手紙では、8 月と 9 月の懲罰に至る経緯は同様の内容だった。刑務所が懲罰の対象にした事由について、T さんは否認している、にも拘わらず「外部との交通手段」を閉ざされてしまう「懲罰」について、どの様な経路（手段）で受刑者の人権を護ることが出来るのだろうか。

T さんの手紙が黒塗りされないで私たちに届いていることをどのように受け止めたら良いのかも気になっている。何処か相談が出来るところがないだろうか・・・など等、論議がされた。

9 月号の岩橋さん寄稿で合理的配慮というより合理的調整が求められるのではないかと提言されている。

出口支援についても出所直前ではなくて長いスパンで実践されることが、更生して社会復帰する目的に適うのではないかと考える。

——共同連全国大会 I N大阪 参加報告——

9 月 14 日～15 日の二日間、共同連の全国大会にあしたやの 10 人が研修として参加してきました。共同連は「共に働く」をテーマにして発足し今年で 33 年目になります。たこの木クラブが企画した 1995 年の「共に生きるバスツアー」で共同連のわっぱを見学したことが、あしたや共働企画を始めるきっかけにもなりました。

昨年の全国大会は東京大会 I N 多摩で 1 日のみの実施、今年は 2 日間の開催。テーマは「切らへん、分けへん共に働くってええやん」 ～一人一人の「暮らし」と「働く」が金儲けのネタになっている！どないしょう！？～大阪の言葉で今の障害者が“働く”現状を問題にした大会でした。全体会のみ簡単に報告します。二日目は分科会でしたが報告などはまた改めて…

■ 全体会 I

「一人一人にはストーリーがある だから思い通りにはさせへんで！」
～障害者雇用率ビジネスと悪しき A 型の実態 「共に働くを問い直す」～
◇記念講演 雇用率を売買する障害者雇用率ビジネスの問題点

市川亨さん(共同通信編集委員)

現在、民間企業で従業員 40 名以上を雇用している事業主は法定で障害者を 2.5%雇用する義務があります。現状として企業の半数は法定率を未達成です。これを背景に雇用率アップのために企業に代わって障害者雇用代行ビジネスとして雇用の実態がないまま雇用率を企業に与えて金儲けをはかる雇用率売買ビジネスが急拡大している。

障害者が社会参加でき、一緒に働くことで「共生」がすすむという本来の趣旨からは程遠い実情が報告されました。例えば「農園型」ビジネス事業者。貸農園などを企業に提供し、働きたい障害者も紹介して雇用を事実上代行するビジネスが広がっているのです。利用企業の大半は農業とは無関係で、農作物が市場に出ることはほとんどなく、お金を払って雇用率を買っているのが実態。働く、と言いつつ障害者が一か所に集められた農園の実態は大半が休憩時間で実働は実質 3 時間など、本来あるべき障害者雇用・働くというあり方からは大きくかけ離れてしまい、雇用率達成のために代行ビジネスに頼る企業の本音が透けて見えてきます。

◇シンポジウム 「共に働く」から離れている現実はどう向き合うか

「利用者を金儲けのコマとして利用 “悪しき A 型の実態”

・ 藤田和恵さん (フリージャーナリスト)

障害者と雇用関係を結び最低賃金を払う総合支援法の制度の中就労継続支援 A 型で給付金を受け取りながら、実体は悪しき働く場になっている現状の報告。利用者の印鑑を勝手に押して利用日の水増しや仕事内容の虚偽記載をした上に早帰り、求人票と実際の仕事内容が違う、特定求職者雇用開発助成金目当てで自己都合退社の強制、6 か月ごとに A 型、一般企業、退職を繰り返させて就労移行支援体制加算を目当てにしているなど一般社団法人「KIZUNA」でおきている障害者を食い物にしているリアルな報告、暗澹たる気持ちになりました。

・ 久万真毅さん (山陽新聞社)

全国で起きている A 型事業所での運営悪化などによる障害者の大量解雇の問題を取り上げた。A 型で働く人は 2012 年には 24,000 人だったが、2022 年には 84,000 人となった。急激に広がった事業所だが、現在破産手続きや民事再生手続き中の A 型事業所が急増。結果的に働く場を失った障害者が多数に上っている現実。コロナ感染症などで経営難になっても公金での運営では融資を受けられないことも影響し、働いていた人を大量に解雇したり、最低賃金を支払わなくてもよい就労支援 B 型に移したりしている現状の中で行き場のない障害者が現在も多くいることが報告されました。

◇全体会Ⅱ

「共に働く」場を広げるために社会的協同労働組合を展望する

・ 高橋弘幸さん (ワーカーズコープセンター)・新居良さん (豊能障害者労働センター) がその特徴や意義について話された。また共同連・斎藤縣三さん (共同連・わっぱ) はその実践報告を出発点として、さらに障害者だけでなく働くことに困難を強いられる人々を包み込んで共に働く組織として社会的協同組合をめざしていく方向性について話されました。

久しぶりの一泊で「共に働く」を研修してきたあしたやのメンバー 10 名。

移動中や宿泊の様子から、普段の自立生活や GH での暮らしぶりを垣間見ることができるとなりました。地域で暮らすことの積み重ね、大したものですよ！

山崎さんのリクエストで本場お好み焼き、たこ焼きも楽しみました。(長尾すみ江)

も く じ

・表紙	1
・#手書き最強 #たこの木連続講座 12 月 8 日予定 2	2
・重度訪問介護対象拡大から 10 年。何かイベントやりませんか? 2	4
・#shienin やままり	6
・「少年時代 3」65	7
・社会に向けて その 7	8
・じゃすみん通信 ~第 86 回 薄情 の巻~	9
・行ったり来たりして考えていることなど 10	10
・世界の片隅で支援をつぶやく 115 ~タイムカプセル~	11
・たこの木インフォメーション	12
・「ムーミン」の物語が教えてくれること(「ほんの紹介」80 回)	14
・愛チャン 00043 物凄い強い腕力を持ったマンチャン	15
・荒井聡子	16
・『チャンスタイム』を広報する 1	18
・【自由律の俳句を嗜む 梅 ワチャおギラギラ】	20
・フィットする支援をめざす会	21
・あしたや共働企画のページ	22
・もくじ・編集後記	24
ねじり草 第 187 号	
・すいいち日記	2
・最近のすいいち企画	4

編集後記

- ・諸般の事情により、連載中の皆さんに「締切り厳守」のメールを送らせて頂いた。「一夜で認識がガラリと変わった」という経験がたくさんある分、締切日を超えてのご投稿も「さもありなん」と思いこれまで対応してきたが、そうも言えなくなりました。皆さんのご協力いただき心より感謝。
- ・早くに原稿を頂き余裕が生まれたかと言えば、連休中風邪で床に臥せってしまう。3 日ほど思考停止。もし、いつも通りだと収拾がつかなかったかも。そして、書きたい事はたくさんあるものの、まだ病み上がりで頭が廻らず、私の記事はいつもより少なめです。
- ・今年の PF 大会に参加した当事者の介助時間で資料を見せてもらった。本人は語らないけど、レシート帳や出納帳や資料等々を駆使して様子を伝えようとしてくれる。その様子から有意義な 2 泊 3 日だった感じた。その日、横田さんから 3 日間の様子を伺い、大変な面もありつつ長年積み重ねてきた経験の凄さを改めて感じました。でも、...
- ・PF 大会の内容自体は結局解からず。ぜひ参加された方からの報告をお待ちしています。
- ・介護保険における訪問介護事業所の壊滅的状况の報せを聞く。そして、障害福祉の分野でも同様の事が忍び寄る感を抱き始めている

発行人:障害者団体定期刊行物協会
〒157-0072 世田谷区祖師谷 3-1-17-102
編集人:たこの木クラブ
〒206-0025 多摩市永山 1-1-4 ルミエール 103
☎/📠 042-389-1378
定 価:100 円